



2018年7月30日
株式会社ロゼッタ

株式会社ロゼッタのAI翻訳サイト「アイちゃん」が 医師向け論文検索・共有サービス「JOURNAL」と連携開始

株式会社ロゼッタ（所在地：東京都千代田区、代表取締役：五石順一、東証マザーズ：6182、以下ロゼッタ）は、メドピア株式会社（所在地：東京都中央区、代表取締役社長 CEO：石見 陽、東証マザーズ：6095、以下メドピア）が提供する医師のための論文検索・共有サービス「JOURNAL（ジャーナル）」と連携を開始しました。



■ 「JOURNAL」とは

「JOURNAL」は、医師が良質な論文に出会う機会を増やすことを通じて、医師の臨床や研究をサポートすることを目的に開発された、医師のための論文検索・共有サービスです。

■ 「アイちゃん」とは

「アイちゃん」は、最新のAI技術と医学分野に特化したデータベースを活用することで、最大精度95%（※1）で翻訳するAI翻訳サイト（<https://www.traai.com>）です。アカウント登録するだけで、誰でも簡単にご利用頂けます。

※1 翻訳精度数値は、人目評価によるロゼッタ社比の指標です。また、精度 95%とは、「プロの専門分野翻訳者以下非専門の翻訳者以上」として当社が認識する水準です。

■ 背景

メドピアが「JOURNAL」を開発するにあたり、医師がより簡単にPubMed（※2）の論文を検索・選定する仕組みを模索していました。この課題に対し、医学論文を高精度に自動翻訳することができる「アイちゃん」と連携することで、

- ・海外論文を日本語のキーワードで検索しても適切な論文を見つけられる
- ・論文タイトルや要旨をより正確に確認することができる

ようになりました。

※2 PubMed（パブメド）は、米国国立医学図書館（NLM）が作成し、WEB上に無料公開している医学分野の代表的な文献情報データベースです。

■ PubMed論文を翻訳者レベルの正確さで翻訳

ペルフルオロアルキル化物質(PFAS)は、in vitroでヒト細胞においてエストロゲンおよびアンドロゲン受容体活性ならびにステロイド生成のいずれにも影響を及ぼさない。

Perfluoroalkylated substances (PFAS) affect neither estrogen and androgen receptor activity nor steroidogenesis in human cells in vitro.

0
ブックマーク
0
コメント

pharmacology metabolism drug effects biosynthesis Steroids Cell Survival Progesterone Cell Line

Receptors, Estrogen Estrogen Receptor...

PMID: 29601859 (PubMedへ)
論文掲載日時: 2018年07月 2 view

アブストラクト コメントを読む (0)

<Abstract>ペルフルオロアルキル化物質(PFAS)ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)およびペルフルオロオクタノ酸(PFOA)は撥水および防汚性表面の製造に用いられる。PFOSとPFOAの使用は、それらの生殖毒性とそれらの環境残留性のために制限された。したがって、PFOAやPFOSとは対照的に、代替PFASに業界が切り替わる毒性データはごくわずかしか入手できない。PFOAとPFOSの生殖毒性の基礎をなす分子機構はほとんど知られていない。ここでは、PFOA、PFOS、およびペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)、ペルフルオロブタンスルホン酸(PFBS)、ペルフルオロヘキサノ酸(PFHxA)、ペルフルオロブタン酸アモニウム(PFBA)、ペルフルオロ(2-メチル-3-オキサヘキサノエート)(PMOH)、および3H-ペルフルオロ-3-[3-メトキシプロパン]プロパン酸[(PP-P)]を含む6つの代替物の内分泌特異性を、MCF-7、H295R、LNCa-2などのヒト細胞株を用いてin vitroで調べた。PFOA、PFOSおよびPMOHは、17β-エストラジオール刺激エストロゲン受容体β活性を増強し、PFOS、PMOH、PFHxAおよびPFBAはジヒドロテストロン刺激アンドロゲン受容体活性を増強した。H295Rステロイド合成アッセイにおいて、PFOAおよびPFOSはエストロン分泌をわずかに増強し、プロゲステロン分泌はPFOAによりわずかに増加した。これらの影響は全て、10μM以上の濃度でのみ観察され、10μM以下の濃度で分子内分泌エンドポイントのいずれにも影響を示さなかった。従って、西欧の一般集団における種々のPFASの血清中濃度は10 nMかそれ以下の範囲であるので、結果はPFASが本研究で検討した分子的エンドポイントに従えば曝露濃度でヒトにおいて内分泌作用を發揮しないかもしれないことを示唆する。

Abstract (英語原文)

The perfluoroalkylated substances (PFAS) perfluorooctanesulfonic acid (PFOS) and perfluorooctanoic acid (PFOA) are used for the fabrication of water- and dirt-repellent surfaces. The use of PFOS and PFOA was restricted due to their reprotoxic properties and their environmental persistence. Therefore, industry switches to alternative PFAS, however, in contrast to PFOA and PFOS only few toxicological data are available for their substitutes. The molecular mechanism(s) underlying reproductive toxicity of PFOA and PFOS are largely unknown. Here, the endocrine properties of PFOA, PFOS, and of six substitutes including perfluorohexanesulfonic acid (PFHxS), perfluorobutanesulfonic acid (PFBS), perfluorohexanoic acid (PFHxA), perfluorobutanoic acid (PFBA), ammonium perfluoro(2-methyl-3-oxahexanoate) (PMOH), and 3H-perfluoro-3-[[3-methoxypropoxy] propanoic acid] (PMPP) were examined in vitro by using human cell lines such as MCF-7, H295R, LNCaP and MDA-kb2. PFOA, PFOS and PMOH enhanced 17β-estradiol-stimulated estrogen receptor β activity, and PFOS, PMOH, PFHxA and PFBA enhanced dihydrotestosterone-stimulated androgen receptor activity. In the H295R steroidogenesis assay, PFOA and PFOS slightly enhanced estrone secretion, and progesterone secretion was marginally increased by PFOA. All these effects were only observed at concentrations above 10 μM, and none of the PFAS displayed any effect on any of the molecular endocrine endpoints at concentrations of 10 μM or below. Thus, as the blood serum concentrations of the different PFAS in the general Western population are in the range of 10 nM or below, the results suggest that PFAS might not exert endocrine effects in humans at exposure-relevant concentrations according to the molecular endpoints examined in this study.

論本文を読む (外部サイト)

powered by Rozetta 翻訳者レベルの自動翻訳アイちゃん



アイちゃんて翻訳された論文は
ロゴが表示されます。

「アイちゃん」を用いて翻訳したPubMed論文は、従来の翻訳システムと比べ、医学分野の専門用語を的確に翻訳、また、読みやすく推敲された日本語の表現力を実現しております。

■ メドピア株式会社について

メドピア株式会社は、「Supporting Doctors, Helping Patients.」をミッションとして、医師同士が臨床経験を共有する医師専用のコミュニティサイト「MedPeer」を運営しています。

代表取締役社長 CEO：石見 陽（医師・医学博士）

所在地：東京都中央区銀座6-18-2 野村不動産銀座ビル11階

TEL：03-4405-4905

事業内容：医師専用コミュニティサイト「MedPeer」の運営、その他関連事業

URL：<https://medpeer.co.jp/>

■ロゼッタについて

株式会社ロゼッタは、「我が国を言語的ハンディキャップの呪縛から解放する」という企業ミッションの下、最大翻訳精度95%の超高精度AI自動翻訳の開発・運営とAI自動翻訳技術を活用した革新的翻訳受託サービスを提供する会社です。

代表取締役：五石 順一

所在地：東京都千代田区神田神保町3-7-1

TEL：03-6880-1510

事業内容：超高精度AI自動翻訳の開発・販売等

URL：<https://www.rozetta.jp>

サービスURL：<https://www.traai.com>



株式会社ロゼッタ (コード番号:6182 東証マザーズ)

所在地:東京都千代田区神田神保町 3-7-1

代表取締役:五石 順一

事業内容:超高精度 AI 自動翻訳の開発・販売等

URL:<https://www.rozetta.jp>

お問合せ先

■商品に関するお問合せ

マーケティング本部 :渡邊、三重野

TEL:03-6880-1510 e-mail:marketing@rozetta.jp

■報道に関するお問合せ

社長室 :酒井

TEL:03-6685-9570